

市史編さんだより

2005.3.1

市史編さん室のホームページが完成

市史編さん室では、この2月から相模原市ホームページの中に「市史編さんについて」のページを作りました。下の写真は、実際にパソコンを使って目次ページを開いたところです。



市史編さん室のホームページを見るには、閲覧ソフトのアドレス欄に

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp> と入力します。

相模原市のページへつながりますので、画面左側の「市のプロフィール」をクリックします。次の画面に展開後、「市史編さんについて」をクリックするとご覧になります。

このページでは、市史の刊行計画や入手方法、講演会のお知らせや事務局案内等、さまざまな情報を掲載しております。また、「市史編さんだより」のバックナンバーも順次掲載していきます。

なお、「広報さがみはら」や「市史編さんだより」でお伝えしている市史関連の情報は、今後はこのホームページにも掲載します。インターネットの接続環境がある方は、相模原市史についての新たな情報源として、ぜひご活用下さい。

新聞記事に見る相模原・・・

神奈川新聞複写・収集作業から

市史編さん室では、昨秋刊行した現代図録編に続き、現代資料編の刊行準備を進めています。よりよい市史刊行のためには、戦後の相模原に関する資料の調査・収集が不可欠です。資料には写真・パンフレット・ちらしなどさまざまな種類がありますが、当時の様子を知る大きな手がかりになる資料に「新聞」があります。



市史編さん室では、本市関係の記事が比較的多く掲載されている「神奈川新聞」を選び、収集を始めました。神奈川新聞は、市立図書館に1961(昭和36)年以降の原紙が保存されていますが、それ以前のもので保存されていません。そこで、他市の市史編さん関係機関で既に所有のものや、神奈川県立公文書館(写真上)にマイクロフィルムで保存されているものを複写する作業を行いました。

マイクロフィルムとは、原情報を肉眼で読めないほど極度に縮小して作成された微小写真画像で、これをマイクロリーダーという機械に装着して複写を行います。昨年11月から2月までの3か月間で、1956(昭和31)年から5年間分の神奈川新聞を複写しました。当時の新聞は現在と違い、1日あたり6～8ページと少ないものの、複写枚数は合計で1万枚を超えました。

こうして集められた神奈川新聞には、当時相模原市内で起きた火事や交通事故など、一面や社会面に掲載されている記事のほかに、投書欄や人生相談欄での市民からの投書など、当時の人々のくらしの一面がわかるような内容も見られます。

市史編さん室では、これらの新聞複写資料を、市史刊行の基礎資料として活用していく予定です。



複写・収集した新聞の一部
記事はもちろん、広告やラジオ・テレビ欄からも世相を知ることができる。

○残り期間わずか！！ 市史全7巻を割引販売中 **特別価格1万円**

今年の3月31日まで、1964(昭和39)年～1972(昭和47)年に刊行された相模原市史7巻セットを特別価格にて販売中です。(通常価格2万1,300円)。お求めは、直接市史編さん室か市役所行政資料コーナーへお越しください。また、遠方の方は送料実費で配送の取扱いもいたしますので、お問い合わせください。なお、4月以降は通常価格での販売となります。

相模原ものモ/事典②

ロマンスカー3100系

写真は1967(昭和42)年に小田急線相模大野駅で撮影されたものです。写っている電車は3100系のロマンスカーです。

小田急線は戦後、念願の箱根湯本乗り入れを果たし、新宿からの直通電車で速くて豪華な車両を投入することが検討されました。まず1957(昭和32)年に3000系が登場、オレンジとグレーの目立つ塗装とオル

ゴールを鳴らしながら走ることで注目を浴びました。この流れを受け継ぎ、1963(昭和38)年、東京オリンピック開催による観光客増加を考慮し、運転席を2階に上げて前面を展望客席としたのが3100系です。

当時は、相模大野駅へのロマンスカー停車はありませんでしたが、1998(平成10)年のかながわ・ゆめ国体開催にあわせて、「えのしま号」が停車するようになりました。

市史現代図録編所収の「駅別1日平均乗車人員」のデータによれば、相模大野駅では市制施行直後の1955(昭和30)年に1,957人だったものが、1998(平成10)年には55,953人に増加しています。

現在、ロマンスカーは3000系と3100系が引退したものの、7000系やハイデッカーの10000系、一部2階建ての20000系、相模大野で小田原・江ノ島各方面行きに切り離す30000系と、多種に渡ります。そして今月には、新しく50000系がお目見えするそうです。



子どもたちにも人気のあったロマンスカー
(相模原市広聴広報課所蔵)

災害から資料を守る

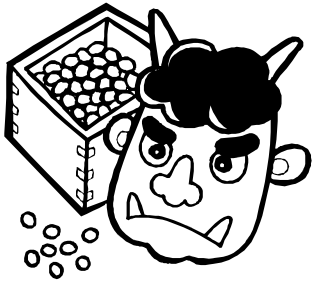
先日の新潟県中越地震や阪神・淡路大震災10周年を契機に、博物館・資料館はもちろん、家庭に保管されている貴重な歴史資料の安全性が問題になっています。市史編さん室事務室では、資料保管庫の棚への耐震用連結バーの取り付け(左の写真)、火



災・不正進入等に対する24時間機械警備システム(右の写真)を設置しています。



市史編さん室では、市民のみなさんに資料提供のお願いをし、既に多くのご協力をいただいています。寄贈・お預りした資料は安全・適切な保管に努めておりますので、戦後の相模原を象徴するような資料がありましたら、ぜひお知らせください。



編さん室の動き (1月～2月)

月	日	内 容
1	4	市史編さん室仕事始め 市史編さんだより第22号発行
	7	県立公文書館へ資料調査・収集(2ページに関連記事/月内随時実施) 国立公文書館へ資料調査
	8	考古資料を磯野台文化財保管施設へ搬送
	14	博物館で資料くん蒸(16日まで)
	16	市制50周年記念展・第二部終了(入場者10,217人)
	27	八王子市郷土資料館へ借用資料返却
	28	文化遺産部会開催
	2	2
3		県立公文書館へ資料調査・収集(19日まで随時実施)
5		近現代部会員による博物館所蔵資料調査
8		市制50周年記念展借用資料返却(15・16日にも実施)
17		神史協研修会「編集・出版の基礎知識」に参加(県立公文書館/24日にも参加)
18		市政モニターへ市史に関するアンケートを発送
24		農林水産政策研究所図書館へ資料調査



市史講演会を開催します。

テーマ：「相模原 一大地と人間の歴史を探る」

日時：平成17年3月12日(土曜日) 午後2時～3時30分(開場午後1時30分)

会場：相模原市立博物館(相模原市高根3-1-15)大会議室

講師：町田 洋さん(東京都立大学名誉教授)

内容：相模原の歴史について、地質学から解き明かしていきます

対象：15歳以上(中学生を除く) 定員：200人(当日先着順) 受講料：無料

「さがみはら市史編さんだより」第23号

発行 2005(平成17)年3月1日

編集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19 (市立博物館隣り)

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039

E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp